

2019年度同志社大学大学院司法研究科

前期日程入学試験問題解説

小論文

問(1) 人工知能の判断の優秀さを支える特質で、人間にはないものは何かを課題文から読み取って、150字以内でまとめなさい。(配点：20点)

課題文から例を拾い、大量の情報から学ぶことができることや、感情に左右されず、恣意的な判断を差し挟まないことを指摘することが求められている。

なお、データを読み込み、人工知能自らどこに目をつければいいのかを判断するディープラーニングの手法は、人間の脳の仕組みを模倣したものであるため、人間にはない特質とは言えない。

問(2) 人工知能の再犯予測システムを活用することによって、どのような社会的便益がもたらされうるかを課題文から読み取って、150字以内でまとめなさい。(配点：20点)

人工知能の再犯予測システムの正確性を指摘し、その活用によって、刑務所不足が改善することや、保護観察官が再犯予測データ作成のような事務作業に労力を割かず済み、犯罪者の社会復帰の監督業務等に時間を使えるようになることの記述が求められている。

問(3) 下線部「ブラックボックスである人工知能が、人生を左右する判断を始めたとき、その答えをどう受け止めればいいのか」について、自分の意見を700字以内で書きなさい。(配点：60点)

自分の意見の記述が求められているので、決まった正答はない。しかし、課題文を踏まえた論述が求められている。以下に示すのは、模範解答ではないが、一つのサンプル答案である。

人工知能の判断過程は、ブラックボックスではあるが、人間の判断過程も必ずしも説明しることができるわけではない。また、人工知能の判断の優秀さは、統計的に裏付けられている。しかし、すべての個別事例において、人工知能が正しい判断をするという保証はない。これは、人工知能に人生を左右する判断をさせるときに、特に大きな問題となる。統計的に正しい判断に従えば、社会全体としての便益は大きいですが、個別事案の正義は必ずしも実現されるとは限らないからである。人工知能の目標設定や、人工知

能に入力されるデータの選別は、人間が行うため、そこに恣意的な判断や間違っただ判断が入る余地があることに留意しつつ、人工知能が出した判断を人間が評価することが必要である。特に、データについては、人工知能には入力されえないものがあることにも注意が必要である。例えば、再犯予測に人工知能を利用する場合、人工知能に入力するのは、過去の犯罪歴、仕事や収入、教育歴、年齢、性別、育った家庭環境などであるが、個々の受刑者の誠実さや反省の度合いなどは入力可能とは限らない。そのような人間的な要素を取り除くと、刑事司法制度への信頼は失われると思われる。したがって、人工知能が人生を左右する判断を始めたときには、それを鵜呑みにせず、人間的な判断要素を加味して、最終的な結論は、あくまで人間が責任を持って出すことが重要であると考ええる。